

3) コアジサシ

コアジサシの平成 15 年度から平成 26 年度の調査における確認位置を図 4.2-3 に示す。

平成 26 年度調査では、平成 25 年 5 月 9 日に海上を飛翔し採餌する 2 個体、6 月 24 日に海上を飛翔およびダイビングする 2 個体と砂浜で休息する 3 個体が確認されたが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査においてもほとんどの調査で生息が確認されているが、今回の調査も含め、これまで営巣は確認されていない。また、確認される時期が渡りの時期であるため、白塚海岸は渡りの途中での採餌場所として利用されているものと考えられる。

4) ミユビシギ

ミユビシギの平成 15 年度から平成 26 年度の調査における確認位置を図 4.2-4 に示す。

平成 26 年度の調査では確認されなかった。

既往調査では、平成 15 年度及び 18～25 年度にいずれも事業計画地外で確認されている。採餌行動が確認されていることから、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息場所に利用しているものと考えられる。

5) キアシシギ

キアシシギの平成 15 年度から平成 26 年度の調査における確認位置を図 4.2-5 に示す。

平成 26 年度の調査では確認されなかった。

既往調査では、平成 15～19 年度、22 年度、24 年度、25 年度に事業計画地外で確認されているが、個体数は少ない。当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

6) イソシギ

イソシギの平成 15 年度から平成 26 年度の調査における確認位置を図 4.2-6 に示す。

平成 26 年度の調査では確認されなかった。

既往調査では、平成 15 年度、17 年度、19 年度～23 年度、25 年度にそれぞれ事業計画地内外で確認されているが、確認個体数は少ない。繁殖行動は確認されておらず、調査地周辺の海岸を採餌・休息に利用しているものと考えられる。

7) キョウジョシギ

キョウジョシギの平成 15 年度から平成 26 年度の調査における確認位置を図 4.2-7 に示す。

平成 26 年度の調査では平成 26 年 5 月 9 日に河芸漁港で採餌する 4 個体を確認した。

既往調査では、平成 15 年度、17 年度、20～25 年度にそれぞれ事業計画地外で確

認されているが、確認個体数は少ない。当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

8) トウネン

トウネンの平成15年度から平成26年度の調査における確認位置を図4.2-8に示す。

平成26年度の調査では平成26根5月9日に砂浜で休息中の11個体を確認した。

既往調査では、平成15年度、17年度、21年度、25年度に事業計画地外で確認されているが、個体数が少ない。本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、既往調査で渡り途中と考えられる個体を確認されている。渡りの時期は年によって前後したり、個体数が増減することがあるため、年により確認されることがあると考えられる。

9) ハマシギ

ハマシギの平成15年度から平成26年度の調査における確認位置を図4.2-9に示す。

平成26年度の調査では平成27年1月16日に海上を飛翔する12羽、砂浜で5羽を確認したが、繁殖行動は確認されなかった。

既往調査では平成15年度と平成21年度～23年度、25年度にそれぞれ事業区域外の海岸部の砂浜で確認されている。本種は旅鳥もしくは冬鳥であり、春と秋の渡りの時期および越冬期に確認される。渡りの時期は年によって前後したり、個体数が増減することがあるため、年により確認されることがあると考えられる。

10) チュウシャクシギ

チュウシャクシギの平成15年度から平成26年度の調査における確認位置を図4.2-10に示す。

平成26年度の調査では平成26根5月9日に砂浜で休息する1個体を確認した。

既往調査では、平成17年度、21年度、23年度、25年度に事業計画地内外で確認されている。本種は繁殖地と越冬地を行き来する際に確認される旅鳥であり、当地域で確認される個体は繁殖地から越冬地に向かう渡り途中のものと考えられ、調査地周辺の海岸を渡りの中継地として採餌・休息に利用しているものと考えられる。

11) アオアシシギ

アオアシシギの平成15年度から平成26年度の調査における確認位置を図4.2-11に示す。

平成26年度の調査では確認されなかった。

既往調査では、平成22年度、25年度に事業計画地域外で確認されている。

本種は旅鳥であり、日本へは春と秋に確認される。計画地周辺の砂浜などを休息場所や採餌場所として利用しているものと推察される。

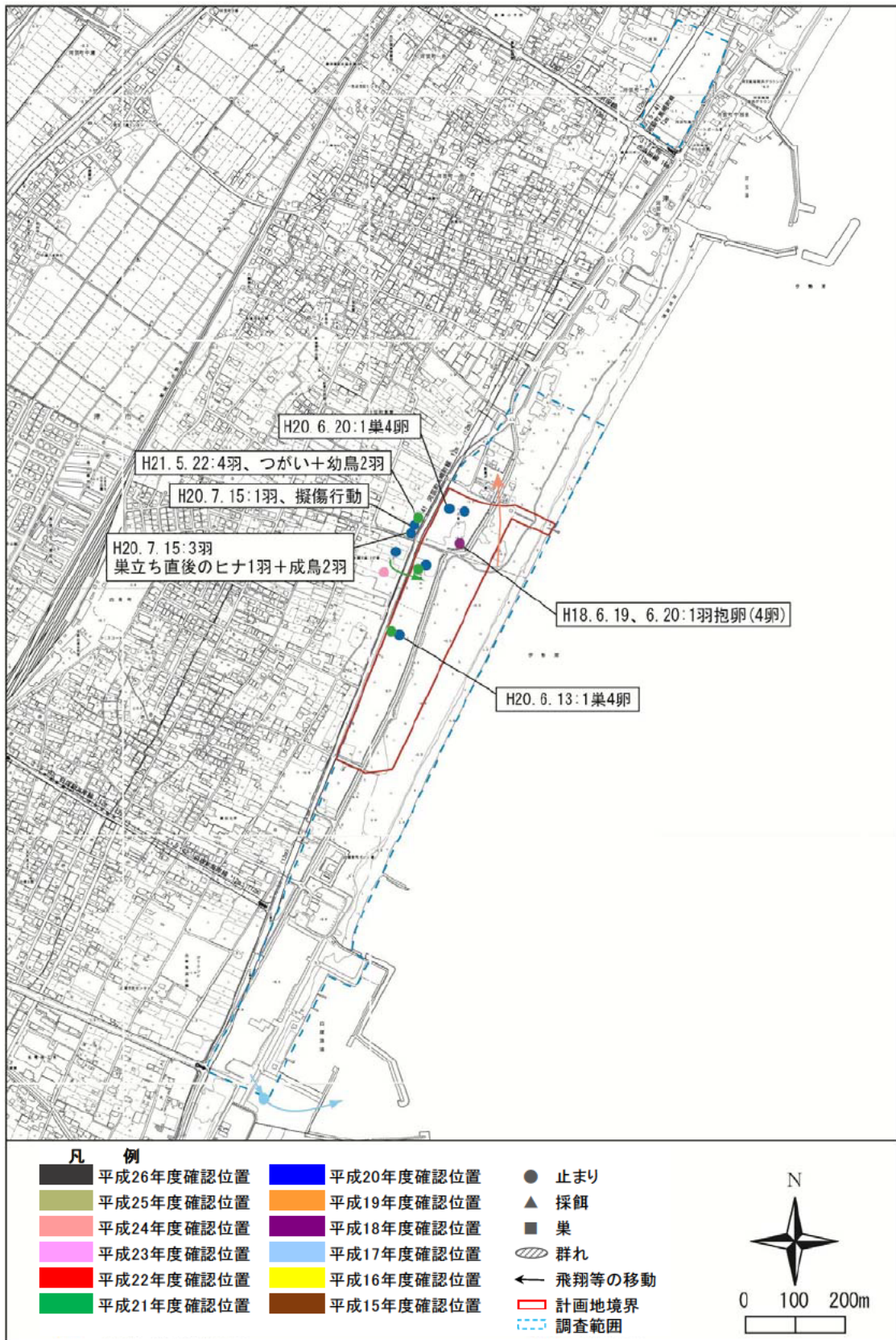


図 4.2-1 コチドリの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

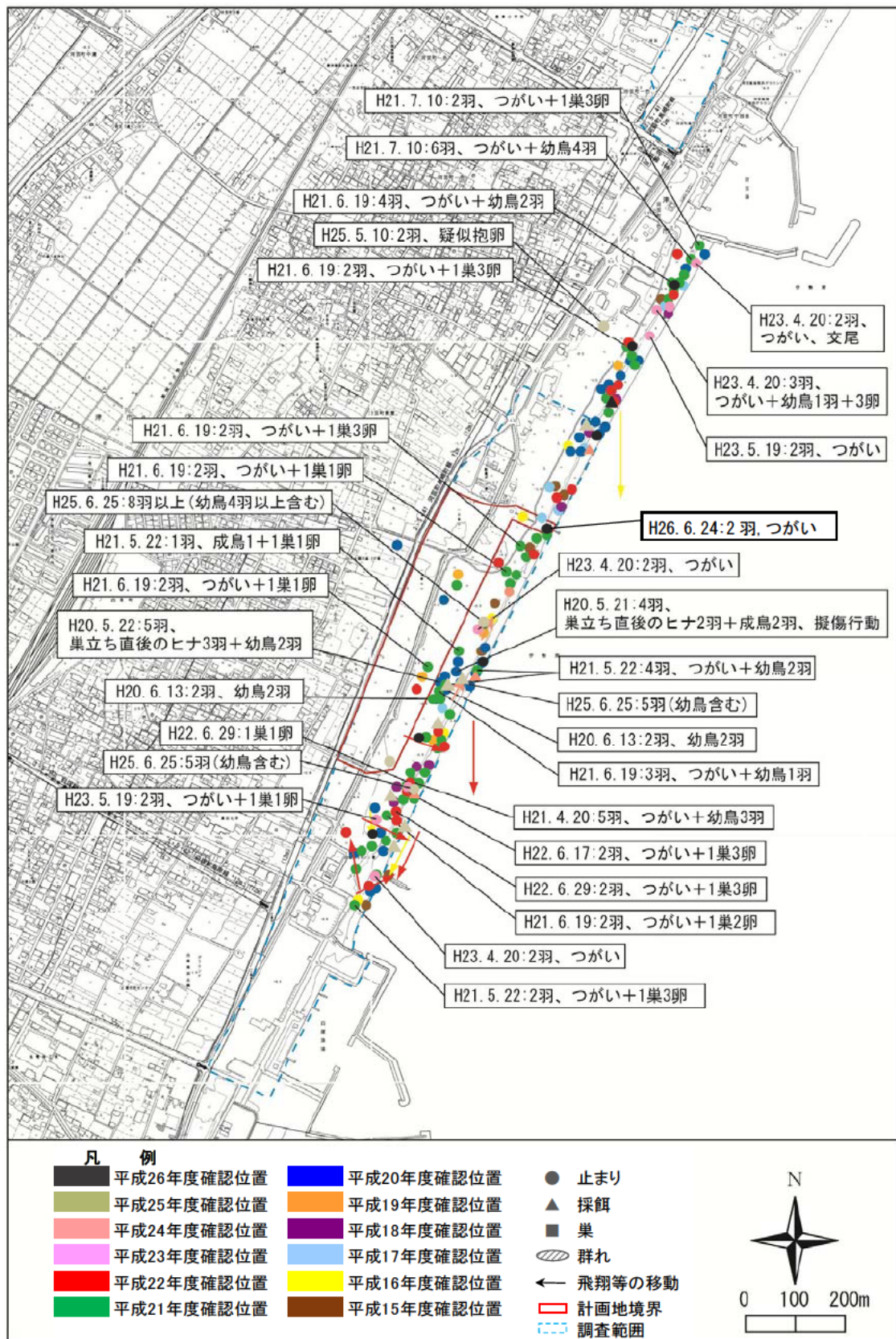


図 4.2-2 シロチドリの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

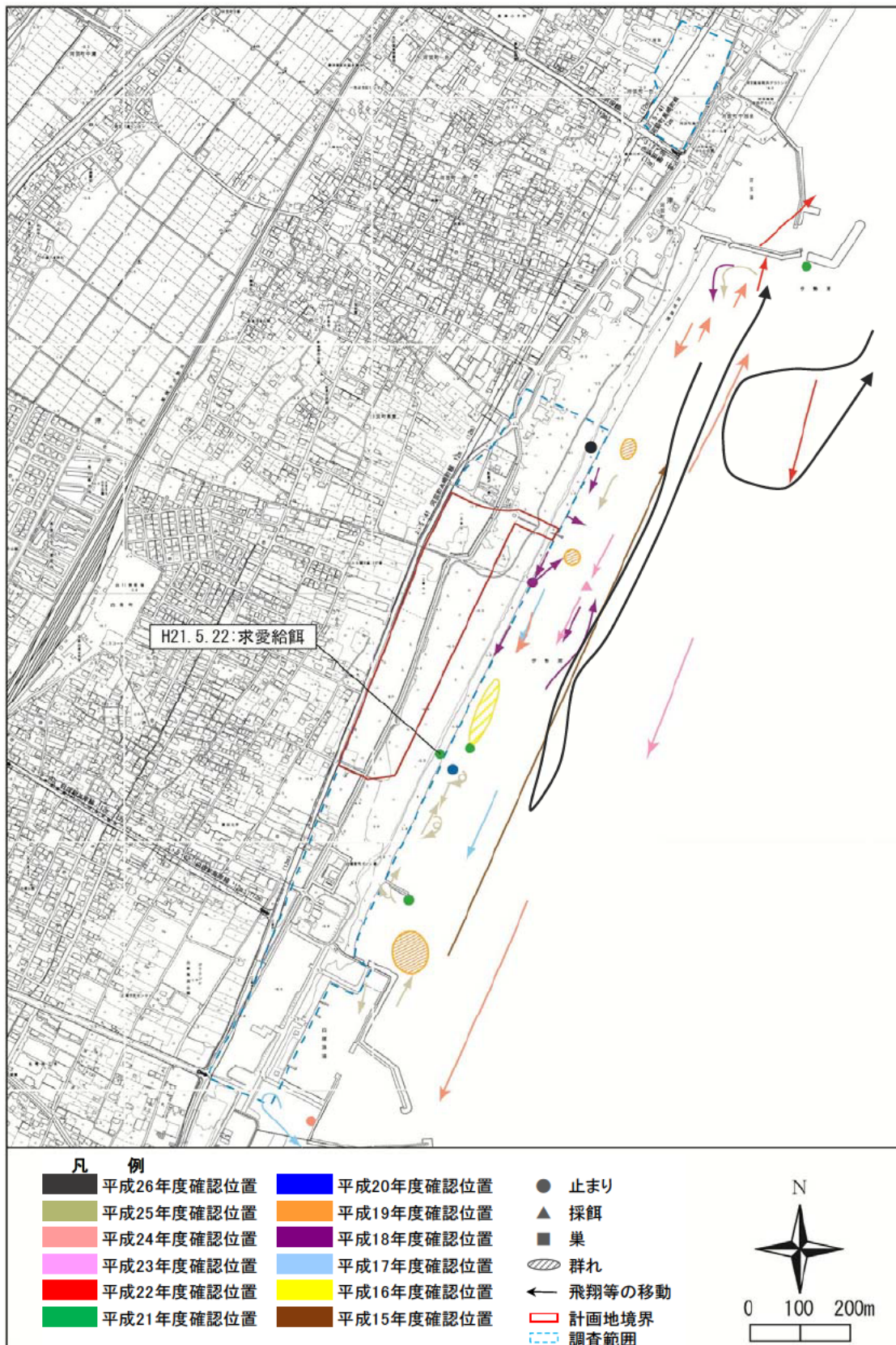


図 4.2-3 コアジサシの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

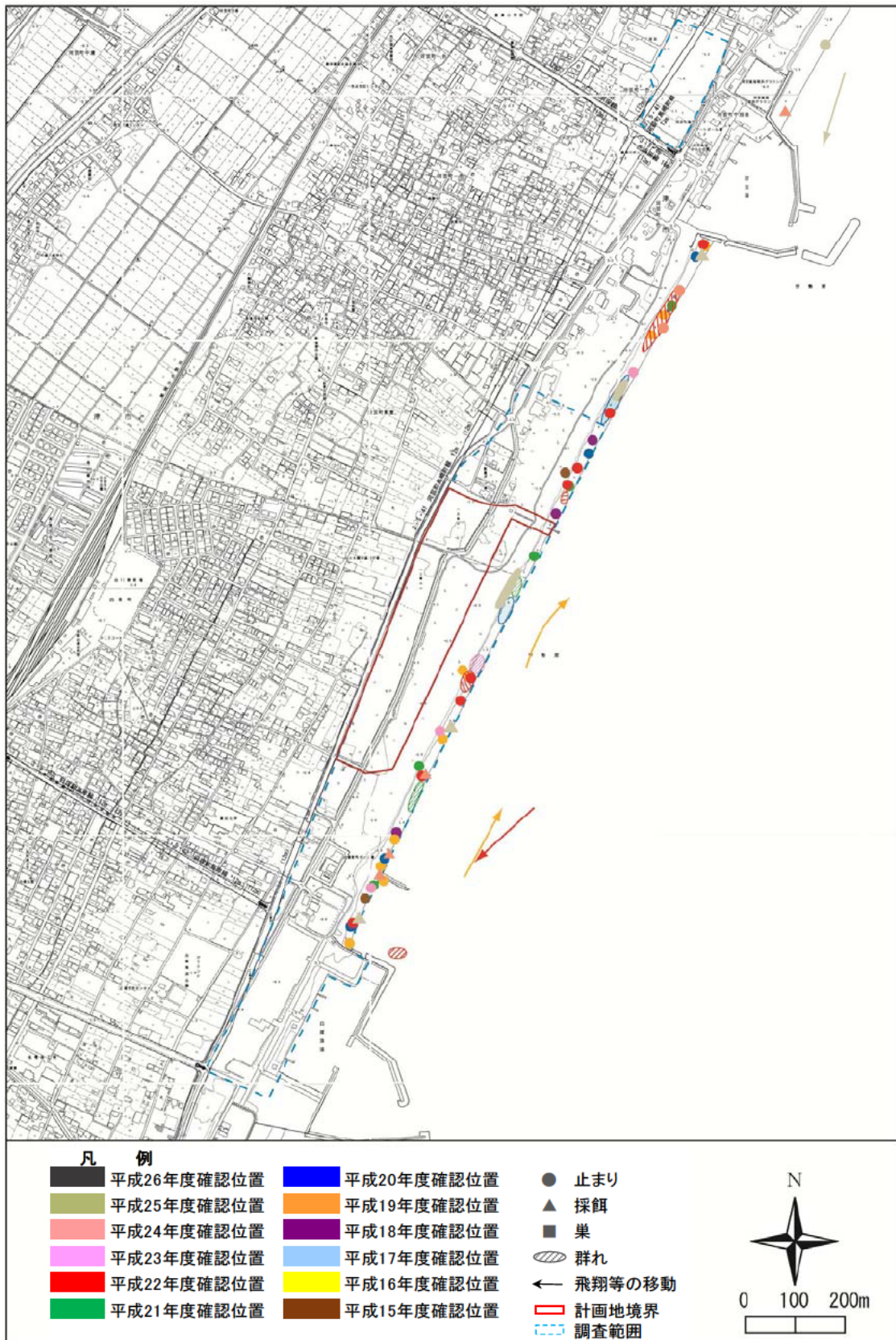


図 4.2-4 ミュビシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

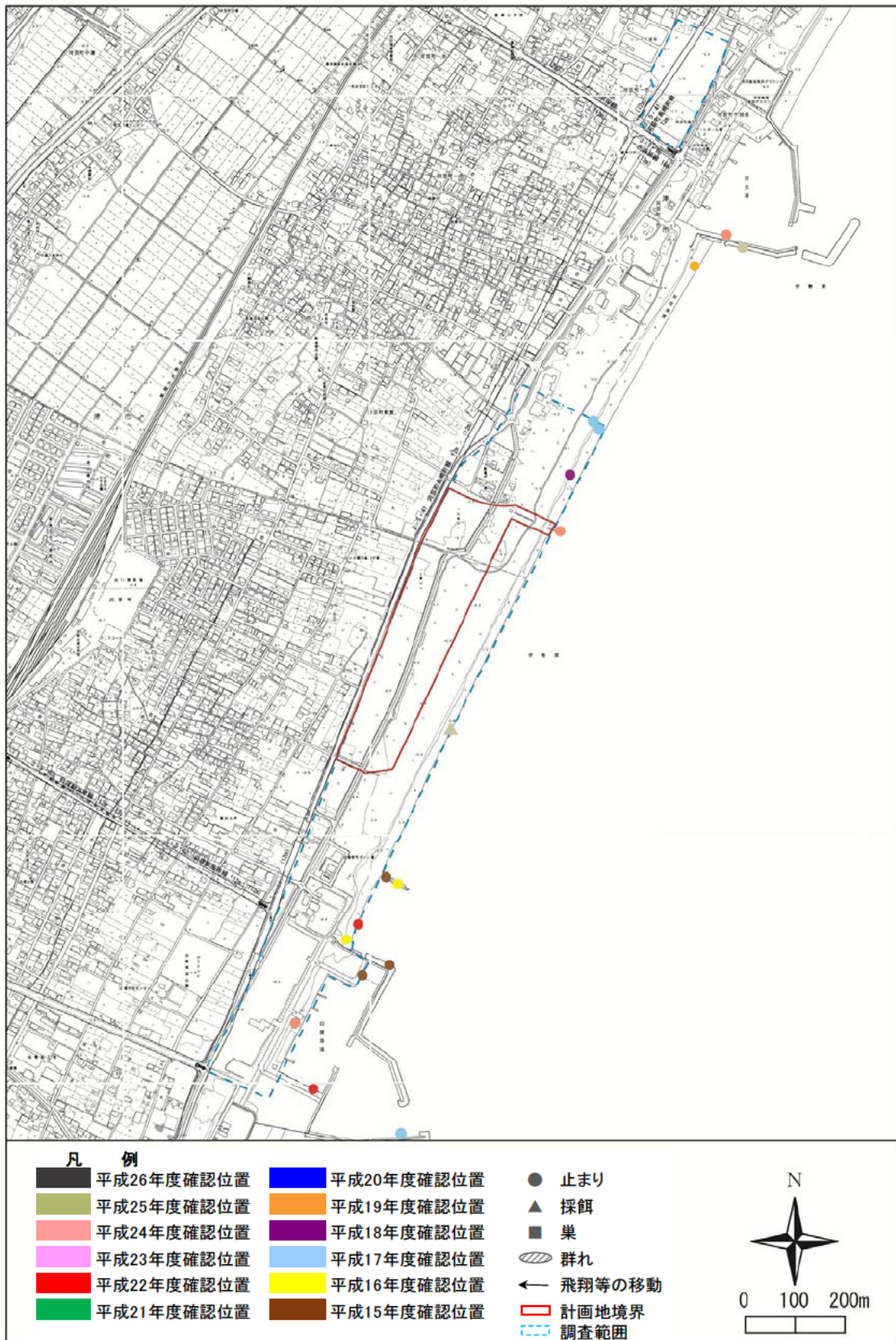


図 4.2-5 キアシシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

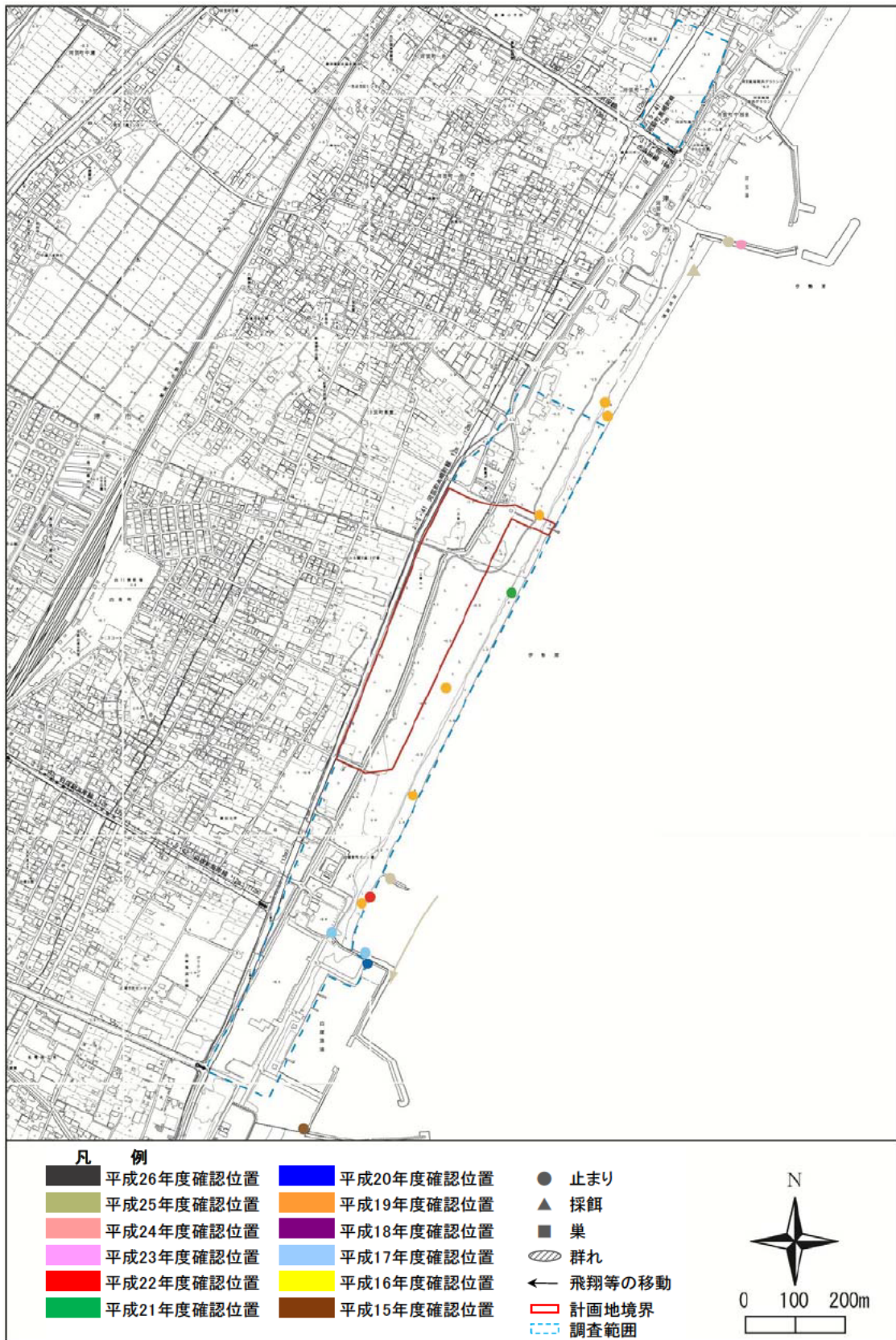


図 4.2-6 イソシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

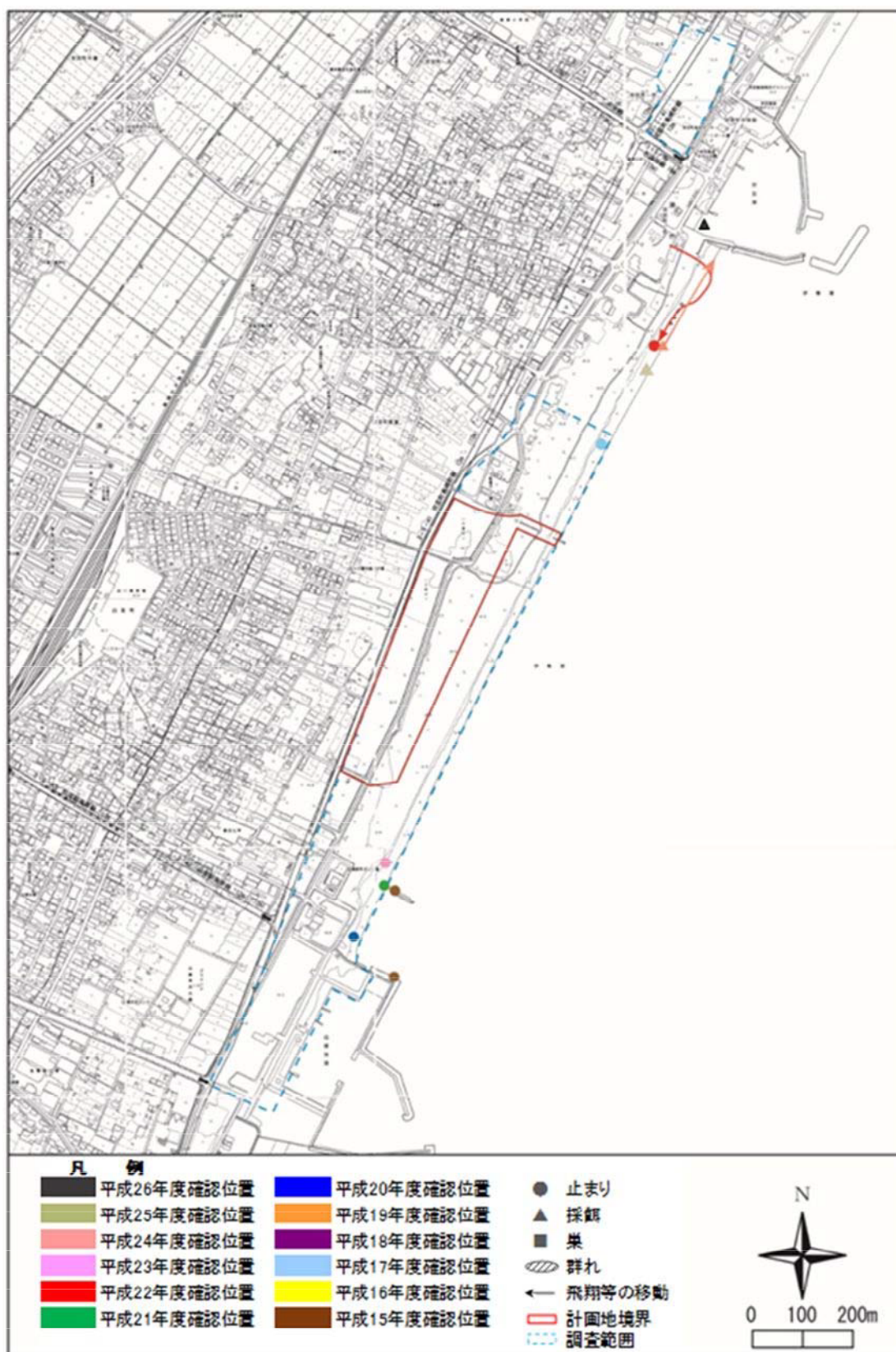


図 4.2-7 キョウジョシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置



図 4.2-8 トウネンの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

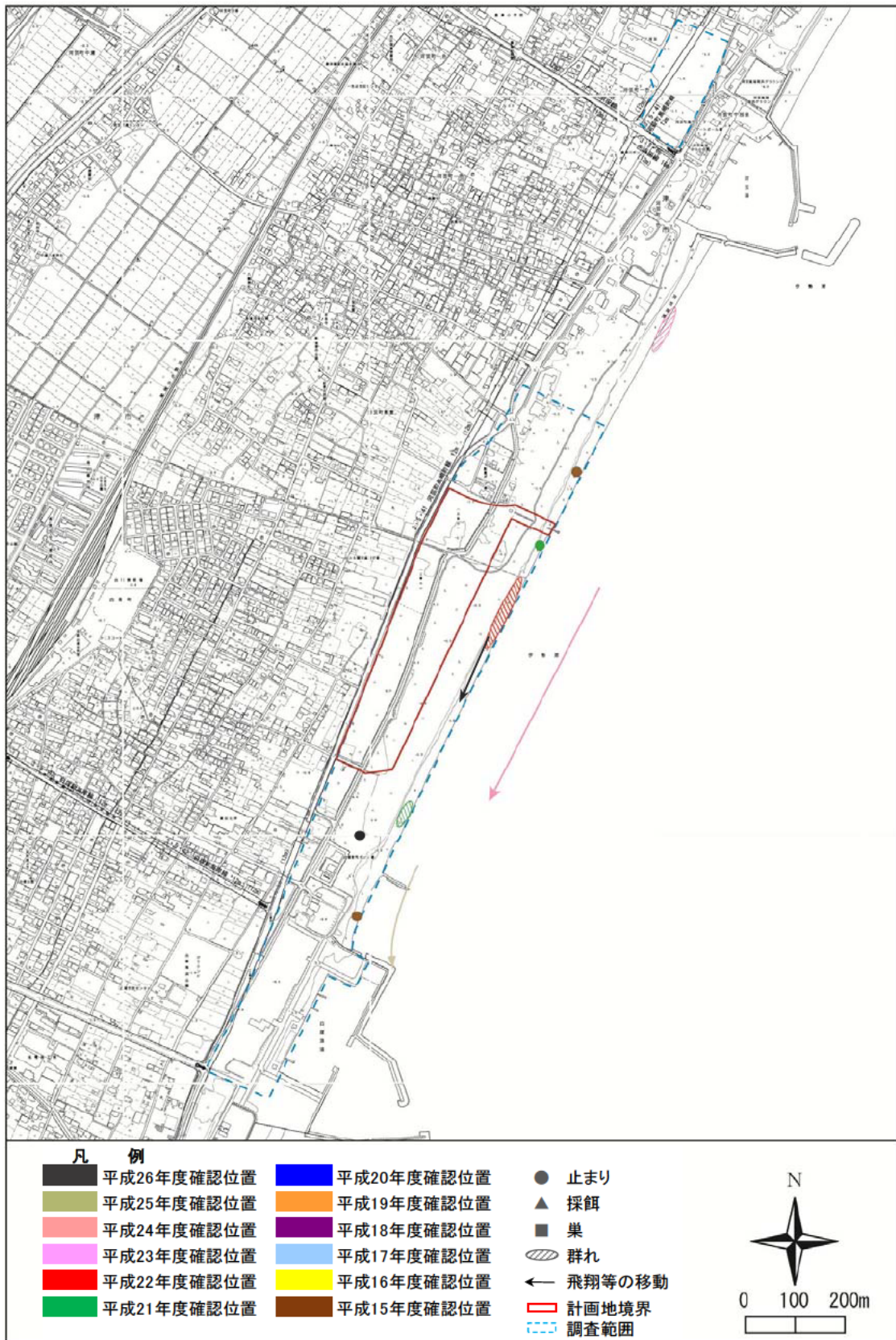


図 4.2-9 ハマシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

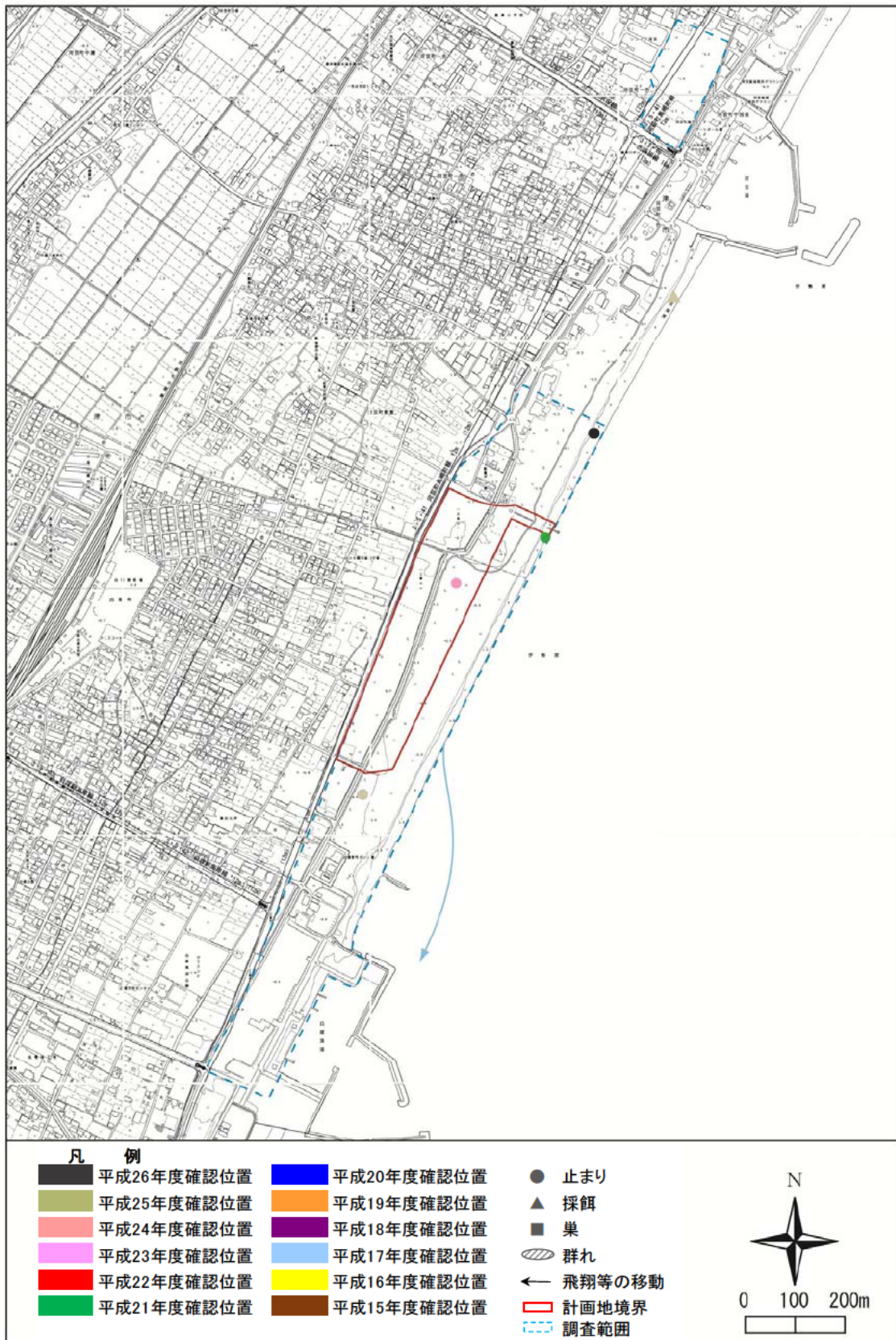


図 4.2-10 チュウシャクシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

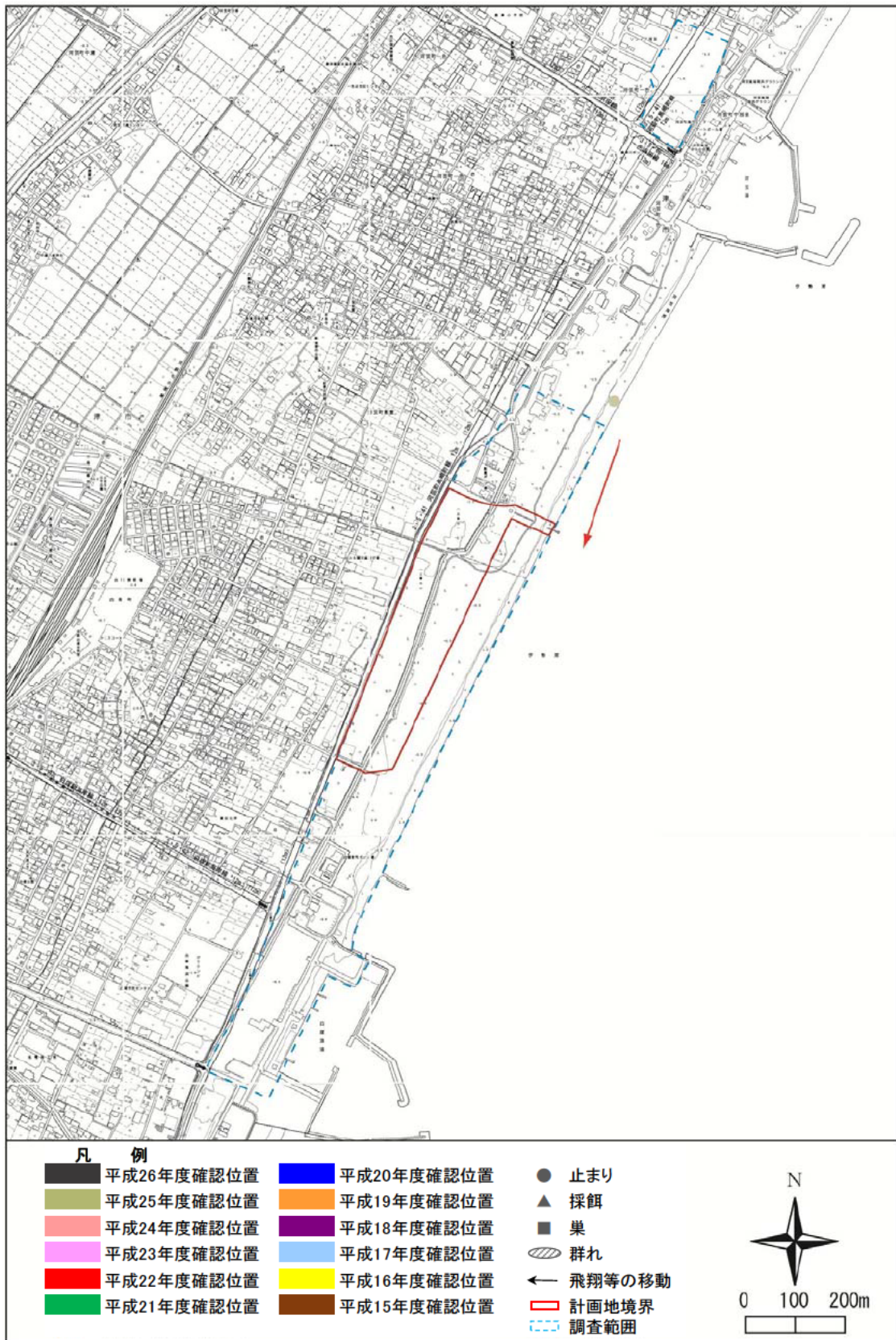


図 4.2-11 アオアシシギの平成 15～26 年度調査での経年確認位置

12) オオヨシキリ

オオヨシキリの平成15年度から平成26年度調査における確認位置を図4.2-12に示す。

平成26年度調査では、平成26年6月24日に計画地外の河芸漁港西側のヨシ原で3個体の囀りを確認した。8月5日には計画地北側と南側のヨシ原でそれぞれ1個体を目視により確認した。その後、本種の繁殖が終了した時期に囀りを確認したヨシ原を踏査し、河芸漁港西側のヨシ原で営巣跡を確認したが、ヨシ保全区域周辺での営巣跡は確認できなかった。

既往調査では平成9年度から平成25年度までは事業実施区域内で生息が確認されていたが、平成26年度は事業実施区域外のみでの確認であった。事業計画区域とその近隣におけるオオヨシキリの繁殖にかかわる行動等の確認状況を経年的にみると、平成17年度までは2~3箇所の営巣が確認されていたが、平成18年以降では繁殖の確認が無いが、1、2箇所での営巣確認という状況が続いていた。

オオヨシキリの繁殖数が減少している要因としては、営巣環境であるヨシ原の減少や、乾燥化などの要因による生息環境の劣化が考えられた。このため、平成24年度には、ヨシ原保全区域で根茎土の移植によるヨシ原の拡大措置を講じたことから、今後の生息が期待される。なお、今後は、オオヨシキリのモニタリングと併せて、このヨシ移植地のモニタリングを実施していくこととする。

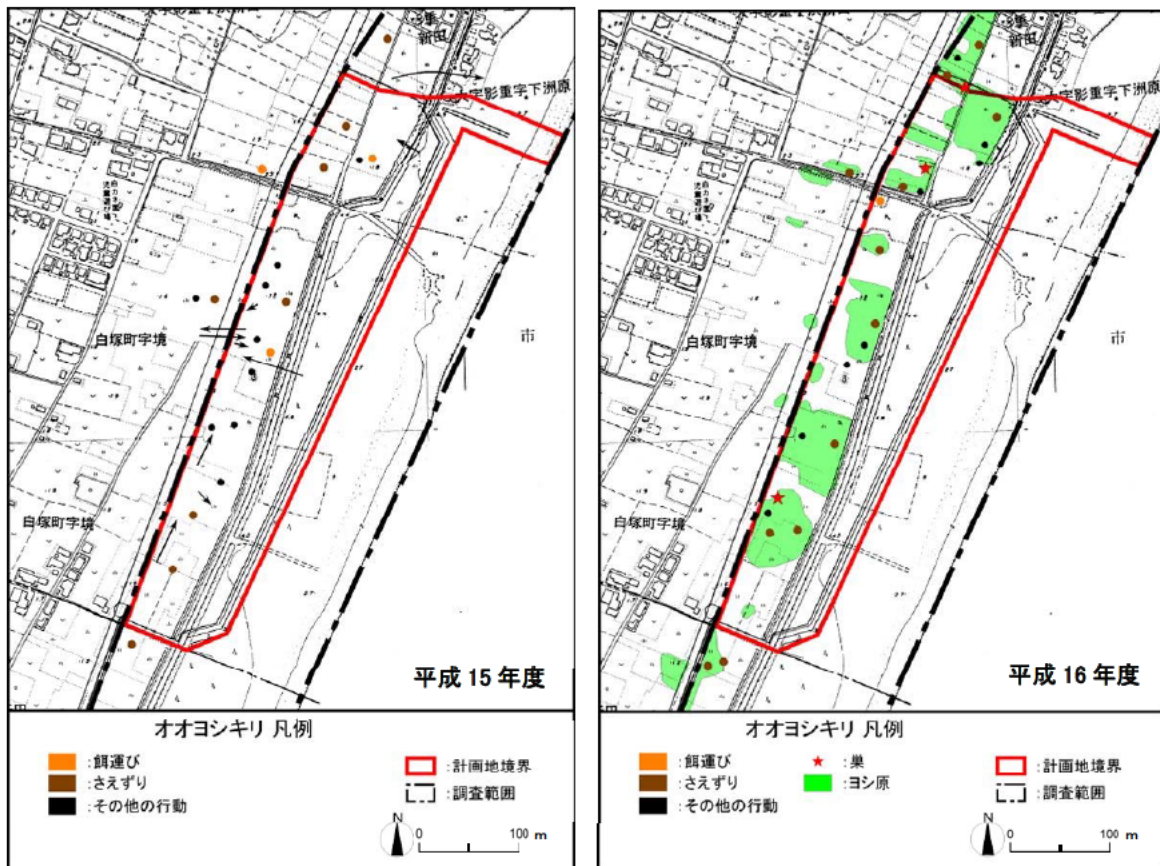


図4.2-12(1) オオヨシキリの平成15~26年度調査での経年確認位置(1/4)

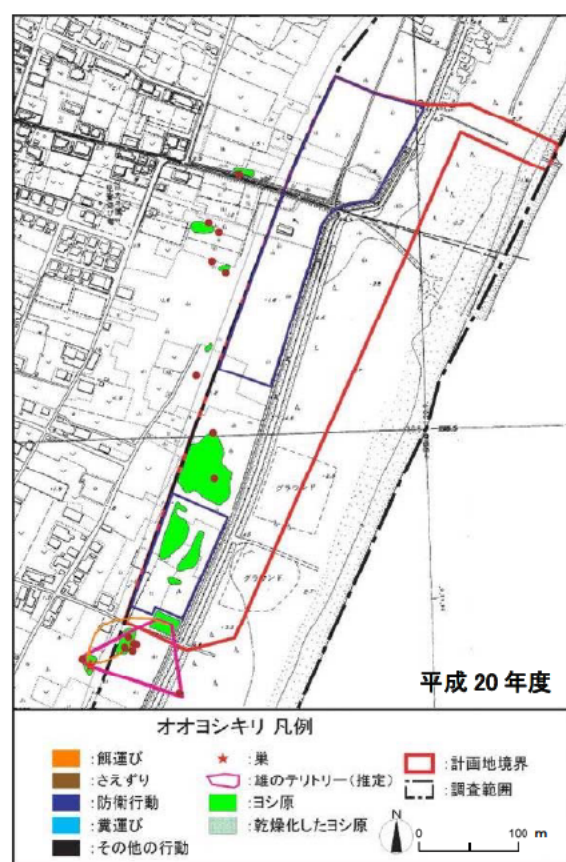
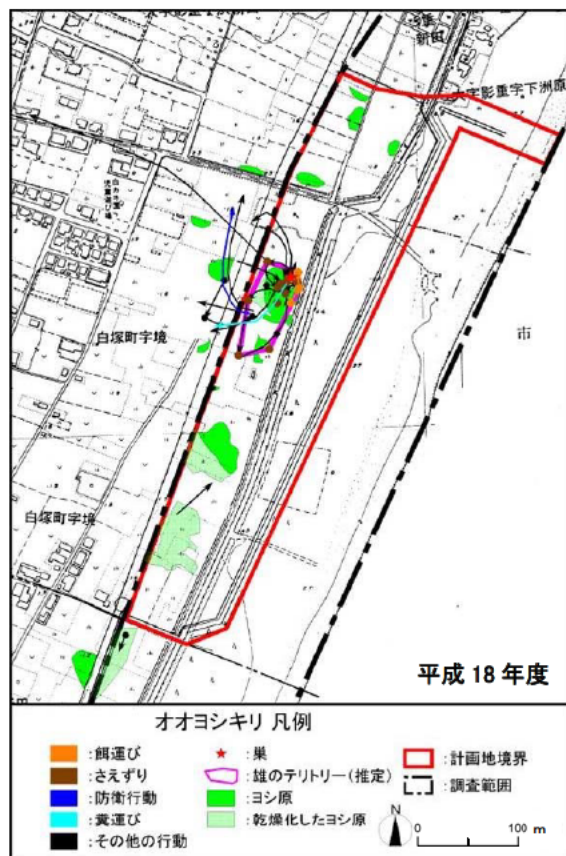
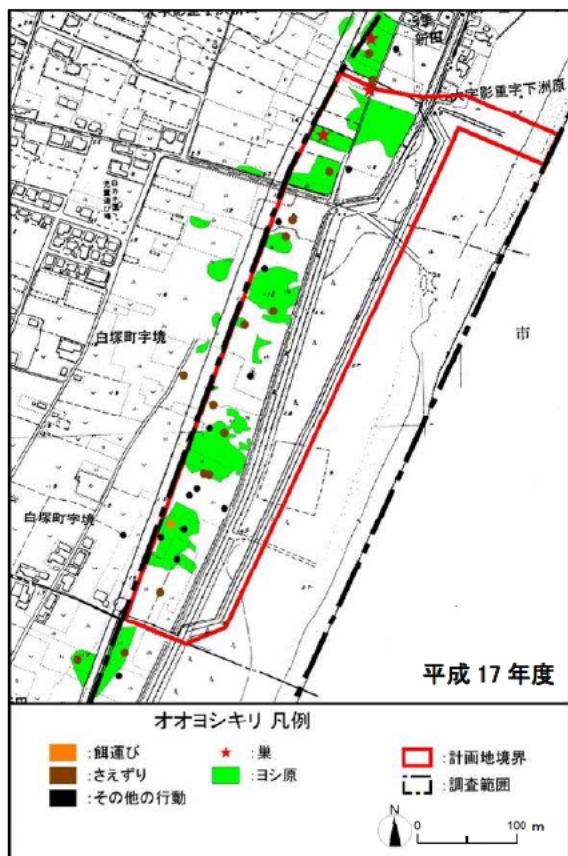


図 4.2-12(2) オオヨシキリの平成 15~26 年度調査での経年確認位置 (2/4)